

# しずおか 県民児協だより

[題字：第54代静岡県知事 石川嘉延 書]

# 23

第23号  
平成24年2月1日発行

編集発行／静岡県民生委員児童委員協議会 〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県社会福祉協議会内 ☎054-254-5224 ファク054-251-7508



## 高齢者に悪徳商法被害防止を 呼びかける



沼津市民生委員児童委員協議会  
越川 年

今年度、沼津市民児協では、毎年、見守り活動の一環として実施している一人暮らし高齢者等実態調査に合わせ、沼津警察署生活安全課、沼津市消費生活センターと連携して高齢者宅を訪問し、悪徳商法や振り込み詐欺等の被害防止についての啓発活動を行った。

特に、市内20地区の地区民児協会長が担当する地域では、地元交番の警察官、市消費生活センターの職員が同行し、お巡りさんからは「携帯電話が変わった」「声がおかしい」等の電話には、すぐに振り込み詐欺を疑い、警察に通報してほしいと話すとともに、電話機に啓発ステッカーを貼ってもらった。消費生活センターの職員は、悪徳商法に引っかかるための三か条（玄関の鍵を掛けておく。「いりません」とはつきり断る。怖かったら警察に連絡する。）や消費生活センターの電話番号が記載された『悪徳商法お断り！「アレ？」と思ったら相談しましょう』というチラシを配布した。

最近では、未公開株や金融商品などへの投資話を持ち掛けるケース、貴金属等をタダ同然の値段で買い取るケース等、多種多様な悪徳商法が目立つほか、相変わらずおれおれ詐欺の被害も増加傾向にある実態について高齢者に知らせ、更なる注意を呼びかけた。

日ごろから他の関係機関との連携を大切に考えている沼津市民児協では、今回の経験をきっかけに、今後、警察や各種関係機関との連携をより密にし、日常の活動を更に充実していきたいと考えている。

# 平成23年度(第80回)全国民生委員児童委員大会報告

期日 平成23年10月27日(木)～28日(金)

会場 新青森県総合運動公園・マエダアリーナ 他



次のとおり「大会宣言」が採択されましたので、御報告いたします。

## 大会宣言

本年3月の東日本大震災により、多くの生命と穏やかな生活の営みや地域社会が奪われました。さらに原子力発電所事故発生以来、その風評被害によって、過酷な生活を強いられている多くの人々がおられます。民生委員・児童委員は、発災からのこの間、被災地において要援護者や被災者を支援し、そして全国各地に避難された人々への支援活動に取り組んでいます。

みちのく青森県で開催しました、第80回という節目の全国民生委員児童委員大会は、あらためて、私たち民生委員・児童委員として、被災地、そして全国で果たすべき使命、役割を明らかにしたところであります。

さらに、わが国の社会・経済の低迷、国民の生活の多様な問題の顕著化は、少子高齢化、核家族化などの急速な進行とともに、社会全体の課題となっております。そうした状況下において、住民の立場に立って、要援護者への見守り・相談支援活動を通じて、地域社会において自立し安定した生活を支えるための、地域福祉の推進がますます重要であります。

私たちは、昨年末の全国一斉改選により、新たな多くの仲間を迎え、全国23万人の民生委員・児童委員が、民生委員制度創設90周年活動強化方策「広げよう 地域に根ざした 思いやり」行動宣言のもとに、「安心して住み続けることができる地域社会づくり」と、「地域社会での孤立・孤独をなくす運動」を、また、「児童虐待や犯罪被害などから子どもを守る取り組み」を、そして「災害時要援護者支援活動」を、全国で着実に推進していかなくてはなりません。

私たちは、地域の人々の信頼と期待に応えるために、ここに強い決意のもとに、次のとおり宣言します。

- 一、東日本大震災で被災された人々と地域の復興のために、全面的に支援を行うとともに、福島原子力発電所事故の風評被害に対する各地での正しい理解が得られるよう働きかけます
- 一、全国各地での災害時に、要援護者を地域住民や関係機関とともに支え、地域で助け合える社会づくりとしての防災活動を実践します
- 一、相談・支援活動を強化し、高齢者・障がい者・子育て家庭など、支援を必要とする住民の見守り、誰もが安心して生活できる地域ネットワークづくりを推進します
- 一、児童、高齢者、障がい者の虐待予防・早期発見・早期対応とともに、犯罪被害から守る防犯活動を推進します
- 一、基本的人権についての理解を深め、個人情報取り扱いなど常に活動を見直し、住民や関係機関・団体との信頼関係に基づく活動を進めます
- 一、民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりとして、関係制度の充実を図るための取り組みを、各市町村、各都道府県・指定都市、全国で推進します

平成23年10月27日

第80回 全国民生委員児童委員大会（開催地 青森県・青森市）



# 大会報告

## 津軽三味線の音に迎えられ

静岡県民生委員児童委員協議会 副会長 安間 邦子

日本中が冷え込むとの天気予報が出された10月26日に出発し、27、28日と青森市で開かれた第80回全国民生委員児童委員大会に静岡県から総勢36名で参加しました。青森の空気は冷えていると駅に降りたとたん感じました。

1日目は、青森市郊外のマエダアリーナに約三、二〇〇名が集まり大会式典。グリーンのジャンパーを着た青森県民協の人たちが笑顔で迎えてくれる中に入場。広いアリーナに椅子が整然と並べられ



ていて、事前準備の苦労がうかがわれました。オープニングは、津軽三味線。巧みな撥さばきで奏でる音楽に癒された後、開会しました。各方面からあいさつをいただき、全県民連会長表彰が行われました。静岡県では、御前崎市浜岡地区民児協が優良民児協表彰、小澤副会長が永年勤続単位民児協会長表彰、そして2人の方が永年勤続民生委員・児童委員表彰を受けられました。いったん休憩の後、特別講義、大会宣言案採択、抛金贈呈、次期開

催地あいさつが行われ、1日目は終了しました。

「絆 忘れちゃいませぬか 大切なものを」と題して行われた特別講義の講師は、プロスキーヤーの三浦雄一郎氏。青森市で出生されたとのこと

でした。80歳を目前にしながらも雪焼けた精神なお顔で、元気に語られました。しかし、70歳のエベレスト登頂成功は、医師の健康管理を受けながら限界への挑戦というすさまじいもののような感じ。そのような経験から「夢に向かって小さな山、小さな山を積み重ねていく、諦めないで積み重ねること。」と語っておられました。ただ、アリーナという大会場の宿命で、会場中央の私たちの席では、とても聴きとりにくかったことが残念でした。

最後に、来年度開催地の大分県から力強いお誘いの声がありました。2日目は、10のテーマに分かれて、会場も青森の市内各所に分かれて、活動交流集會が開かれました。どの会場も選ばれた発表者から実践報告がされ、刺激を受けた会となりました。どの地でも、地域に密着して活動している民生委員・児童委員の

No.	活動交流集會テーマ
1	民児協活動と関係機関との連携を考える - 活力ある民児協運営と関係機関との連携・協働
2	高齢者の孤立・孤独をなくすために - 見守り、訪問活動の促進
3	自殺防止に向けた取り組み - 悩みの相談と解決に向けた支援
4	生活困窮世帯への自立支援 - 相談支援のあり方と関係機関との連携
5	災害時要援護者支援活動を推進するために - 東日本大震災における支援活動の状況と課題への対応
6	課題を抱える子ども・子育て家庭への支援 - 問題の早期発見と関係機関との連携・対応
7	学校等関係機関との連携強化を進めるために - 地域で取り組む豊かな子育て・子育て
8	障がい者を社会で支援するために - その人らしい自立した生活のための支援と社会参加の促進
9	豪雪に伴う高齢者等への支援 - 豪雪期における要援護者支援と関係機関・団体等との連携
10	活動しやすい環境づくりのために - 活動のPR・研修の充実と要援護者情報の共有化

姿があります。活動交流集會は、次の表のとおりで、静岡県の参加者は、第9の豪雪の問題以外の各集會へ3〜4人ずつ参加しました。

静岡県から本州の北端まで乗り継ぎ、一番遠い人は、約8時間。遠くまで出掛けた収穫は、十分あった大会でした。



# 完成しました!!

## 「清水町防災かるた」

清水町民生児童委員協議会

清水町民生児童委員協議会では、「災害時一人も見逃さない運動」の一環として既に要援護者マップを作成し、毎年更新してありますが、予想される東海地震などの災害に備え、町民の防災意識の啓発や浸透を図るため、平成22年度に、会長の発案で、防災をモチーフにした「清水町防災かるた」の作成事業に着手しました。

平成22年6月に、同協議会に防災かるた作成事業実行委員会を設置し、依頼、かるたの「読み句」の募集をはじめ、絵札や収納箱の製作まで、約1年半に渡る作業を終え、このたび、ようやく完成しました。

◆「読み句」は、平成22年6月に夏休みの課題として教育委員

会を通じ、町内の小中学校へ協力を依頼するとともに、町広報やホームページを通じ、子ども



から大人まで広く町民の皆さんから作品を募集し、9月末までの応募期間中に、1,102点の作品が寄せられました。

◆「読み句」の審査は、氏名を伏せ、実行委員による1次審査、2次審査を経て、さらに町の学識経験者等6人の外部審査員による厳正な最終審査の結果、すべての読み札46作品を決定しました。

採用者の内訳は、未就学児1人、小学生5人、中学生4人、高校生1人、成人17人、合計28人の方々です。

また、複数の「読み句」に採用された方が5人おりました。◆防災かるたの作成が進む中、東日本大震災が発生し、大津波

などによって、大変多くの方々  
が犠牲となり、かるたの作成に  
当たっていた実行委員のだけれも  
が心を痛めました。

この災害における被災状況は、  
想像を絶するほど甚大であり、  
私たちの防災に対する従来の意  
識を覆すとともに、防災意識の  
重要性を改めて認識させるもの  
でした。これにより改めて審査  
基準の見直し等を行ったことで、  
作業の停滞を余儀なくされるこ  
ととなりました。

しかし、この災害を機に、町







民の防災意識の高揚を図ることへの責務や「読み句」を応募していただいた多くの方々の思いからも、「1日も早く、完成を」と奮起し、かるたの完成日を定め、これを目指して、多忙な民生委員としての活動に加え、月に1回のミーティングを重ねてきました。

◆「防災かるた」を作成するに当たっては、幸いにも赤い羽根共同募金会から助成金を交付していただくこととなりました。助成の規定等から、かるたの読み札には赤い羽根がデザインされています。



この読み札や絵札の作画、印刷等の製作は、専門のデザイナーや印刷会社にお願いしました。印刷する赤い羽根の大きさや配置等を考慮し、かるたのアクセントとなるよう、大変バランス良く仕上げていただきました。

これにより、清水町独自のオリジナル性の高いかるたが完成したと自負しています。

◆平成23年12月4日(日)、地域防災の日に合わせ、「清水町防災かるた」の完成披露会並びに「読み句」採用者の表彰式を清水町福祉センターで執り行いました。

採用者には賞状及び図書券、完成した防災かるたを記念品として授与しました。

◆「清水町防災かるた」は、防災教育に役立ていただくよう、町内の小中学校に配布するとともに、町図書館、防災センターなどの町公共施設に備えました。なお、「清水町防災かるた」は、清水町のホームページでも、全作品をご覧いただけます。

ホームページアドレス  
<http://www.town.shimizuzhizuoka.jp/>



## 会長談

完成した「清水町防災かるた」の活用を通じて、町民一人ひとりの更なる防災意識の高揚が図られることを期待しております。

防災かるたの発案の目的は、まず「読み句」を子どもからお年寄りまで幅広く募集することで、応募の過程においても町民の皆さまに、防災について考えていただきたいということにありました。第二に、私たち民生児童委員自身の防災意識の再確認を図るものであります。そして、完成後は防災かるたで家族そろって楽しみながら、知らず知らずのうちに有事の際の対処方法を覚えていただきたいというものです。かるた遊びを通じて、きつと家族や友だちとの絆も深まることでしょう。

ご応募いただきました多くの皆さまとご協力賜りましたすべての皆さまに心から感謝申し上げます。

(会長 鈴木 通保)

詳細・問合せ／清水町民生児童委員協議会(事務局)・役場1階 福祉課  
 地域福祉係 ☎055・981・8214

# ひろば

## 被災地の早期復興を



伊豆市  
民生委員児童委員協議会

島村 榮

東日本大震災の復興支援は、国民としての義務である。しかし、支援に限界が見え、忸怩たる思いだったが、丁寧に協力を求めた募金、生活物資の提供、意識した現地産の購入など、できることから協力することに決めた。また、伊豆市に居住する被災者には、地域の風習を活かした途切れのない柔軟な見守りを決意した。

発災から寝食を忘れて復興に取り組んできた関係者の講演会や復興を支援している専門家やボランティアの報告会では、辛い悲惨な状況が伝えられ、可能な限り震災被害を小さくするための準備をしてくださいと訴えていた。早速、私たち民児協では、「災害時一人も見逃さない運動」の見直しに着手し、継続して取り組むこととなった。

今も現地は、生活、産業、経済、教育など、多くの課題を抱え、大部分は、将来を担う子どもたちの手に委ねられることになるといふ。「津波の脅威と逃げ延びて命の大切さを知り、ごく当たり前のことであつても、感謝しながら生きて、この体験をこれからの人生の糧としたい。変わり果てたこの街にずっと住み続けて、どのように変わっていくのかを見届けたい。」と決意している。

震災を体験しなければ、きつと毎日が幸せだったに違いない。生きたいという強靱な心から、忘れかけていた自然との関わりを見直し、当たり前前に過ごしてきた毎日を大切にしていかなければならないことを教えてもらった。復興を見るまで、小さな支援を続けていきたい。

## ひろげよう うたと共に笑顔を



富士市  
民生委員児童委員協議会

大芝登貴子  
鳥居 恵子

物質的には大変豊かな社会になりましたが、社会の複雑化により、子どもたちの生活体験や社会体験が減り、生きる基礎となる部分の欠如が懸念されるようになりました。

子どもたちの目が生き生きと輝ける地域づくりはできないかと考え、歌を通じて良い人間関係をつくることから始めようと、主任児童委員である私たち二人は、平成14年度に多世代で五感を使って楽しい時を共有する「うたのひろば」を立ち上げました。

手遊びで始まり、季節を楽しむ日本の懐かしい歌を大きな声で歌い、ゲームで思いっきり体を動かし、読み聞かせでは、お話の世界に引き込まれと、多種多様な体験ができるように工夫しています。手先を使って苦心しながら作るおもちゃ工作は、「家でも作ってみよう」という声が聞けたり、家族の方が作り方を聞きに来たりするほどの人気です。子どもの夢中になる姿を逃すまいとカメラマンのようなお父さんもいます。最後には、全員で手をつないで「ふるさと」を歌い、「♪さよなら三角、またきなこ」とわらべ歌で終わりにします。核家族化で子育ての孤立感が危惧されている今、子育ての仲間づくりの場としても「つながり」を期待しています。

また、地区の民生委員さんにも協力してもらい、地域の人や民生委員同士も良い人間関係を保ち、スムーズな活動につながっています。これからも、「うたのひろば」を通して笑顔あふれる富士駅南地区になるよう皆さんと活動したいと思えます。

## 個人情報開示の取組



藤枝市  
民生委員児童委員協議会

南雲 初義

格差と貧困が増幅する今日の日本の状況を私たち民生委員・児童委員は、「声かけ、見守り活動」を通して実感する日々を過ごしています。特に今年の3・11東日本大震災（地震・津波・原発）後は、災害時の対応が焦眉の問題になっています。

しかし、私たちの活動をより有効に、具体的に行動するとき、個人情報保護法が活動を拒む壁になっていることも事実です。

この問題を解決するために、藤枝市民児協は、今年5月民生委員に対する個人情報提供を求める検討委員会（中村博座長）を立ち上げました。数回の検討を経て、8月15日市長あてに要望書を提出しました。市の担当課にも積極的な対応をいただき、11月には市の審査会で私たちの提案が検討されました。現時点（12月）では「開示了解」は示されていませんが、開示の方向で進んでいると確信しています。

今後の課題としては、①開示項目、内容、範囲、方法の検討 ②民生委員・児童委員が持っている福祉名簿、自治会・町内会所有の災害時要援護者名簿、市から開示予定の個人情報名簿の整合性、統一性の検討 ③民生委員・児童委員の守秘義務の在り方の検討等が俎上に登ってきています。

## 支援を通じて学ぶこと



牧之原市  
民生委員児童委員協議会

原口 佐知子

主任児童委員になり、3期目となりました。当時は30代で、子どもが小学生、委員の皆さんは人生の大先輩ばかり。緊張してスタートしたことを思い出します。年が離れていることもあり、先輩委員の方々から可愛がっていただき、また、たくさんの指導を快くしてくださり、今の自分があることを改めて感謝いたします。

児童の問題は、近年複雑化しています。経済の疲弊している昨今、経済的な理由、若年齢の出産、離婚の多さから、子どもたちの生活環境が維持できないケースが増えています。行政や学校、園と常に連絡を取りながら、各々の役割を果たすことの大切さを感じます。私自身が、未だ子育て中の身なので、要支援者と同じ目線、立場で悩みを共有しながら、相手の声をしっかりと受け止めて次のステップに繋ぐことを心掛けています。今のお母さん方は、メールでのやりとりが多いです。それでも、「ありがたい」とのメールが届くと心が温かくなります。

また、支援を通じ、自分自身も、子育てや地域での在り方など、たくさんのことを勉強させていただきました。委員活動で多くの人との出会いを大切に、今後も自己研鑽を重ねながら、支援活動を続けていきたいと思えます。

## 「災害時一人も見逃さない運動」の推進



御前崎市  
民生委員児童委員協議会

松本 允磨

現在、御前崎市民児協では、「いつ発生してもおかしくない」と言われている東海地震などの災害に備え、「災害時一人も見逃さない運動」を展開しています。

この運動の中核となるのが、町内会ごとの世帯台帳の整備と要援護者個別票の作成、さらに人材台帳の作成です。

これまで、各町内会で独自に行っていた世帯台帳整備を、より要援護者の実態が把握できるよう、御前崎市全体で統一し、同一の形式にしました。

昨年の9月には、町内会、自主防と協力し、世帯台帳と「お助け隊募集」用紙の配布・回収を行いました。この世帯台帳により、これまで以上に要援護者の状況が分かり、避難支援計画に反映できるようになりました。

また、特に医療情報や薬剤情報が必要な方や一人暮らしの方の要援護者個別票も作成しています。個別票については、消防署や病院等、関係機関にも連絡し、災害時だけでなく、緊急時での活用もお願いしています。

そして、「お助け隊募集」については、避難支援、救出救助活動へ多くの人材が登録され、充実した人材台帳ができました。

今後とも、行政、町内会、自主防災組織との連携を深め、情報の共有とともに、支援体制の推進と強化に努めていきたいと考えています。

## 一人暮らしの高齢者においしいお弁当を



森町  
民生委員児童委員協議会

松浦 正郎

森町民生委員児童委員協議会は、一人暮らしの高齢者においしい手作りのお弁当をお届けしようと毎年5月、11月に実施しています。

地元でとれたお米、竹の子、しいたけ、卵、旬の野菜等を使って栄養たっぷり調理をし、こんがりとおいしく焼けた魚を添えて、配色の良いお弁当をお届けしています。

「こんにちは」「お元気ですか」の声掛けをして、できたての温かいお弁当を手渡すと、「おいしいお弁当を楽しみにしています」と大変喜んでくれます。

給食サービスは、私たち民生委員・児童委員にとっても、一人暮らしの方々の安否確認とふれあいができる大変良い機会となっています。

森町の高齢化率は、27・1%と高く、一人暮らしの高齢者が増えています。

これからも、ずっと一人暮らしの方々に喜んでいただけるお弁当作りを続けていきたいと思えます。



# 平成23年度叙勲・大会等表彰の紹介

(敬称略)

## 叙勲

瑞宝单光章

(平成23年11月3日付け)

川口 フサ (沼津市)

中村香津江 (掛川市)

## 厚生労働大臣表彰

(平成23年11月18日付け)

土屋 隆 (熱海市)

河村 智章 (熱海市)

仁科 政巳 (熱海市)

萩野 隆子 (沼津市)

## 静岡県知事表彰

(1)静岡県表彰条例

(平成23年11月3日付け)

山田 孝義 (沼津市)

(2)静岡県健康福祉大会

(平成23年10月20日付け)

高橋ひろ子 (西伊豆町)

東 信次 (熱海市)

山口 弘子 (熱海市)

高村 昌子 (三島市)

西原 茂子 (富士市)

## 全国社会福祉協議会会長表彰

(平成23年11月18日付け)

井上 夏代 (富士市)

森田 恭子 (熱海市)

三宅 幸三 (富士市)

三木 政代 (富士市)

中村 哲子 (湖西市)

## 全国民生委員児童委員連合会会長表彰

(平成23年10月27日付け)

(1)優良民生委員児童委員協議会

御前崎市浜岡地区

民生委員児童委員協議会

(2)永年勤続単位民生委員児童委員協議会会長

小澤 幸弘 (島田市)

(3)永年勤続民生委員・児童委員

田村恵美子 (富士市)

横田 一女 (島田市)

## 編集後記

9月の台風15号は、静岡県に多くの害を与えて去った。「浜松付近に上陸したもよう」の報道のころには、もう我が頭上にいたようだ。「オーイ、ひどいねえ」と3mも離れない隣家の一人暮らしさんの心細そうな電話が入る。伊勢湾台風以来かと思いつながら、3時間ほどやり過ごして出勤した。目の前の東海道名物松並木の大松が倒れ、電線に引つ掛かっていた。辺りは、停電のようで店は暗かった。仕事場への道路も信号が消えてしまっていて怖かった。

その後が大変。我が家のように無傷無害は珍しく、「庭の木の枝が隣の家の車に傷つけて」「隣家の瓦が落ちて来て、ガラスを割られた」等々、あちこちでトラブルが発生しているようだった。出費を嘆く人もいた。でも、困った顔をしなげらも、誰もがつけ加える言葉があった。「東北の人たちは、命を持っていかれ、家はまるごとなくなっただんだもんね」と。

今年、3月11日が何事でも考える基準になっていると、ここでも思った。

仕事場から見える屋根の吹き飛んでしまった家の取り壊しが2か月ほど経って、やっと始まった。(安)